

4.2.2 導・送・配水管の被害件数

表 4.4 に口径・管種・被害形態別の被害件数を示す。

また、表 4.4 に被害件数を管種毎の管路延長で除した被害率を示す。

- ① 合計 14 件の被害が発生し、被害率は平均で 0.07 件/km と小さい値であった。
- ② 硬質塩化ビニル管の被害件数は 8 件であり、被害率は 0.06 件/km であった。被害形態は継手の抜けが 7 件、継手漏水が 1 件であった。
- ③ その他の被害件数は、鋳鉄管 3 件、ダクタイル鉄管、石綿管、消火栓部で各 1 件であった。

表 4.4 口径・管種・被害形態別被害件数（旧輪島市）

管種	DIP	CIP	ACP	PE	VP	その他	計	管路延長 (km)	被害率 (件/km)
口径	50mm以下				5		5	51.2	0.10
	65～75mm		1			1	2	54.0	0.04
	100mm		1	1		1	3	52.2	0.06
	125～ 150mm					1	1	32.5	0.03
	200mm	1					1	7.3	0.14
	250mm以上		1				1	11.5	0.09
被害形態	継手抜け				7		7		
	継手漏水	1				1	2		
	管体破損		3	1			4		
	付属設備					1※	1		
	その他						0		
計	1 (一般継手)	3	1	0	8	1	14	208.5	0.07
管路延長 (km)	52.9	4.9	13.5	2.7	132.9	1.6	208.5		
被害率 (件/km)	0.02	0.61	0.07	0.00	0.06	-	0.07		

※公設消火栓の被害

輪島市建設部水道課の資料による

(注) ポリエチレン管は、全て二層管であった。

図 4.7 に口径別の被害率を示す。被害率は、呼び径 200 で 0.14 件/km、呼び径 50 以下で 0.10 件/km であった。

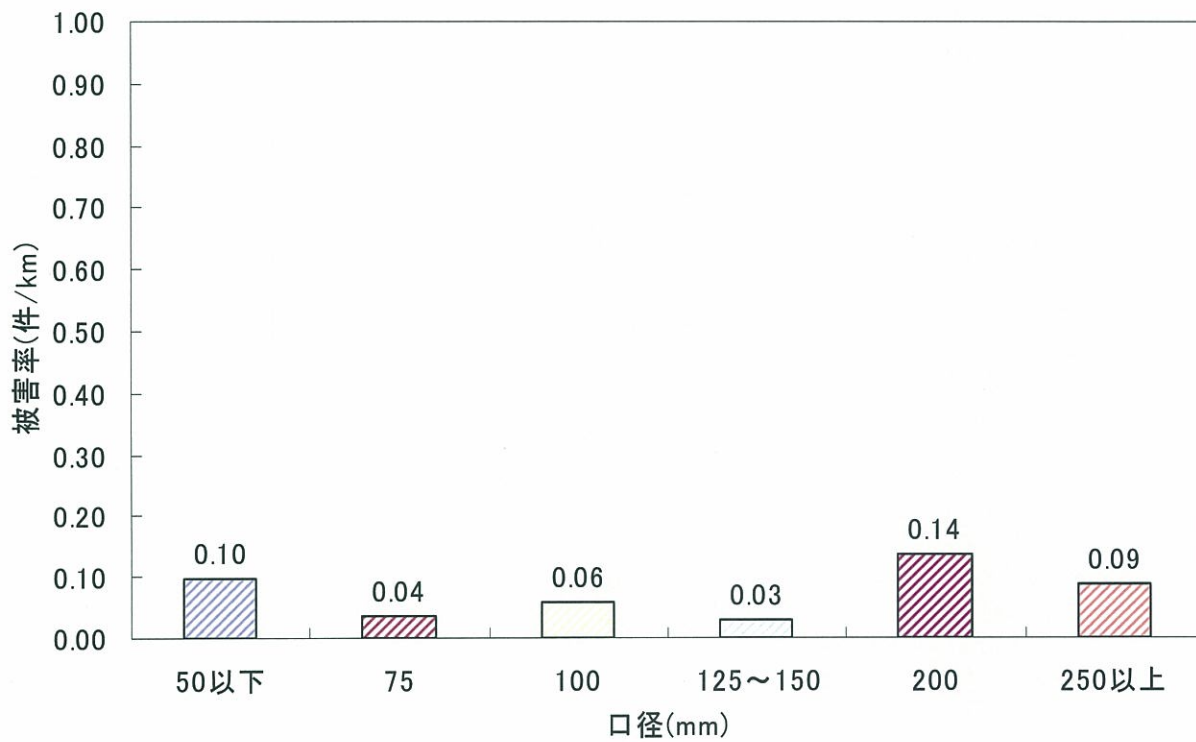


図 4.7 口径別被害率 (旧輪島市)